



そにこうげん くろそやま
■曾爾高原／倶留尊山(奈良県 1037m)

初冬の風を体感しながら歩きます

- 山行日：11月13日(日)
- 参加者：La 須増 SLa 砂川(延) 大野 西脇 島谷 清水 西口 廣岡
Lb 野村 SLb 山本(正一) 木下 荘所 砂川(美) 平石 森下 矢根
- 行動記録：JR加古川駅7:10発ー香芝P(8:20着)8:35発ー曾爾高原入口P(9:50着)10:00発ーお亀池(10:05着・ストレッチ)10:15発ー亀山峠(10:40着)10:45発ー展望広場(11:00着)11:10発ー二本ボソ(11:20着)11:30発ー倶留尊山(12:00着・昼)12:40発ー二本ボソ(13:10着)13:20発ー展望広場(13:30着)13:35発ー亀山峠(13:50着)ー亀山(14:05着)14:10発ー曾爾高原入口(14:25着)ー少年自然の家駐車場(14:40着・ストレッチ)14:50発ー曾爾高原ファームガーデン／お亀の湯(15:00着)16:05発ー阪神高速神戸線／京橋P(18:20着)18:30発ーJR加古川駅19:05着

◆◆ススキそよぐ曾爾高原へ

森下

晩秋の気持ちの良い1日、奈良と三重県にまたがる室生赤目青山国定公園の中で、特異な山容の曾爾高原から日本300名山の1つ倶留尊山(1037m)への山行です。久しぶりに私の大好きな観光バス(明菱興業)での旅となりました。山電高砂駅からのバスに、私はJR加古川駅より出発です。

現地まで約3時間、10時前に到着です。曾爾高原到着前バスの中より左手前面にそびえ立つ鎧岳・兜岳が凜としてそびえ、美しい紅葉を見せています。まもなく目的地に到着し、ストレッチをすませ曾爾高原に向かう。

この高原は今の時期ススキが本当にきれいで銀色のベールを被ったようで、お亀池(年々小さくなっているらしい)は底にすり鉢状?に成っていて、亀山山頂までの高低差100m程の大きな円錐形で、それが一面すすきの原で、亀山の展望台からお亀池を見下ろすと、三色～七色にも見える様な一面ジュウタンを敷き詰めた様で本当に美しく、寝転がってゴロン、ゴロンと転がり落ちたら気持ちが良いだろうなどと、子供の頃の姿を想像してウツトリと見とれました。

ゆるやかな遊歩道が縦横に続いていて、亀山の展望台からのぞくと、お亀池の近くにはベンチも有り大勢の人達でにぎわっていて、ベンチに座っている人達が豆粒の様です。亀山峠からゴツゴツした急坂を登ると二本ボソに出る。(イワシの口)という立札、小さな木の間からのぞくと3、4人の人達が景色を楽しんでいます。やっと登山らしき道に入っていきます。私達はここから入山料が必要という倶留尊山へと登ります。3年前にもこのコースでの山行があったとの事で、前回と同じコースでピストンとのこと。チケット売り場で“今日は良いお天気で暖かいですが、先日は雪も舞ったんですヨ”と話しておられ

ました。途中紅葉の落ち葉のジュウタンを敷き詰めた様な場所も在り、木漏れ日に反射して美しかったです。山頂は思ったより広くて、大勢の登山者がお弁当を広げています。私達もここで一服して昼食後は来た道を下山です。

帰りはお亀の湯で汗を流し順調に本日の山行は終了です。思った程しんどくはなく、楽しい1日を満喫しました。リーダー様はじめ、ご一緒させて頂いた皆様有難うございました。



■高取山と国見山(兵庫50山)

- 山行日：11月16日(水)
- 参加者：L 上田 SL 和田 有本 川上 苦瓜 村上 山下(純)

- 行動記録：高取山登山口 9:40～愛宕神社(9:45 着)9:50 発～登山口 10:00～車で移動－最上山駐車場 10:25～展望台(10:40 着)10:45～千畳敷(10:55 着)10:57 発～駐車場 11:42－車で移動－国見の森公園(12:00 着・昼食)～比地の滝(13:25)13:35 発～モノレール乗場 14:10－山頂駅 14:30～国見山展望台(14:45 着)14:50 発～国見の森交流館 15:40 (高取山が「松茸山」で入山禁止のためコースを変更しました。)

◆◆紅葉が美しかった山行

有本

姫路駅を2台の車で出発し、高取山の登山口につきました。いきなり、入山禁止の看板が現れました。詳しく見てみると、松茸山があるので11月末までは入れないとのこと。

近くに人がいたので話を聞いてみると、「ここ数日パトカーが来ていて山から降りてくる人の荷物を点検していましたよ」とおっしゃっていました。それを聞いた私達は、高取山に登るのを止めて途中にあった愛宕神社に行きました。前の山がとても景色が良かったので、行く事にしました。



山の名前は最上山、通称もみじ山です。

最上山は紅葉祭りで沢山の人で賑わっていました。

紅葉も真っ盛りで、木々が赤や黄色に染まり光が当たって歓声があがる程でした。京都の嵐山も綺麗ですが私が見てきた中では百点満点の景色でした。

次に国見の森へ行き、交流館でぜんざいを作ったり、皆でおしゃべりしながら一息、その後モノレールで山頂

まで上がりました。モノレールに乗っている時に急な坂で、スリル感を味わいました。そして展望台に到着しました。展望台で暫し休憩後、歩いて下山しました。

上田さん温かい心遣いで和やかな楽しい山行となりました。準備をして下さった村上さんありがとうございました。



■鬼ヶ島(580m)～有馬三山 女性委員会 (鬼ヶ島のマザーツリーを訪ねる)

- 山 行 日 : 11月20日(日)
- 参 加 者 : L三木(悦) SL瀧原 狩集 坂田 田羅間(易) 土屋 開 山本(清)

- 行 動 記 録 : 神鉄有馬口駅 9:10 発～深戸谷分岐(9:45 着)～マザーツリー(10:30 着)10:40 発
～鬼ヶ島(10:45 着)～水無山(11:10 着)11:15 発～高尾山(11:40 着)12:10 発～湯
槽谷山(12:40 着)～灰形山(13:30 着)13:40 発～落葉山(14:15 着)14:25 発～妙見
寺(14:30 着)14:40 発～有馬温泉(15:00 着)

◆◆鬼ヶ島のマザーツリーを訪ねて

狩集

神鉄有馬口にて集合する。いつも乗りなれていない路線で、仲間の姿が見えないと不安になる。有馬口で知った顔を見るとヤレヤレほっとする。駅前で他の若いグループがいて、鬼の角がでた黄色の帽子をかぶっていた。鬼ヶ島に登るのかしら、遊び心があって楽しいな。でもどうして山なのに「鬼ヶ島」なんだろう。

住宅街を山の方へ、広場でストレッチをして、林道を水無川に沿って落ち葉一杯の道をしばらく歩く。昨日の雨で落ち葉もしっとりしている。右手に鬼ヶ島の案内があった。ここからは山道になった。まず尾根に出る。急登が続く。鬼ヶ島のマザーツリーに到着。

マザーツリーという言葉は今回初めて知りました。2006年に六甲山国立公園編入50周年を記念して20本がマザーツリーに選ばれた。幹回り樹高共に風格をもつ樹が選ばれるらしい。鬼ヶ島のマザーツリーは「あかがし」樹幹回り6.25m 高さ19m。根元より10本の幹を四方に張ってどっしりとした風格です。どんな事も大きく包んで許してしまう母が、我々を迎えてくれました。今までたくさん登山者を癒してきた事でしょう。

マザーツリーを後にして高尾山に向かいます。大変な急登です。ほんとは周りの紅葉を見ながらと思いつつも、前者の靴を見ながら一步一步進みます。

昨夜の雨でやわらかい土なので滑ってしまって、後者の方に怖い思いをさせていただきました。頂上近くだなどと思っていると、人声が聞こえてきました。

多人数のグループが高尾山で昼食タイムのようです。展望はないところですが、平なところを探して私達も昼食にしました。11月下旬にしてはとても暖かく、上着を着る必要なかった。皆さんに色々頂きながら楽しい昼食タイムでした。

湯槽谷山へは60mくらいの登りなので、快適な



道です。湯槽谷山からの下山はとても急で、一足一足緊張して歩きました。下って登って灰形山、下って登って落葉山に着いてひっそり隠れた三角点に触れた時、歩いてよかったですと思いました。2年前に逆のコースで登ったのですが、こんなに急だったのかと記憶も怪しいものです。

下山途中にピンクのような、えんじ色に紅葉した樹が他の樹の中に美しく映えていました。その樹の近くで葉を見ると小さな葉でした。残念ながら名前が分からない。

妙見寺で前出のグループを追い越して階段を下る。落ちたばかりであろう色とりどりの葉を踏みしめながら下りる。私はこの美しい階段で不覚にも2度も滑ってしまった。気の緩みがあった。(反省)

前日の雨で山行が中止にならず、翌日に行くことができラッキーでした。心配していた雨にも降られず、マザーツリーや最高の紅葉が見られてよかったです。他のマザーツリーも見てみたいです。計画して下さったリーダーはじめ、ご一緒に参加された皆さま、有難うございました。



■大台ヶ原・大普賢岳(学習会B班)

- 山 行 日 : 11月19日(土)~20日(日)
- 参 加 者 : L橋本(健) SL西川 大野 乙坂 島谷 砂川(延) 谷口 矢根 吉村

● 行動記録 :

19日(土)

山電高砂駅6:00-JR加古川駅6:15-奈良県明日香道の駅(8:05着)8:20発-吉野路大淀道の駅(8:30着)8:40発-大台ヶ原ビジターセンター(10:25着・ストレッチ)11:07発~展望台到着(11:42着)11:50発~日出ヶ岳(11:55着)12:14発~正木峠12:38~正木ヶ原(12:50着)~尾鷲辻13:05~牛石ヶ原(13:20着)13:25発~大蛇峠(13:45着)~ビジターセンター(15:25着)15:46発-和佐又山ヒュッテ(16:46着)

20日(日)

和佐又山ヒュッテ6:00発~衣服調節6:15~和佐又山分岐6:30~シダの窟7:12~朝日窟7:21~笹の窟(7:28着・休憩)7:35発~鷲の窟7:38~日本岳の科尔7:50~石の鼻8:10~大普賢岳山頂(9:17着)9:55発~日本岳の科尔11:43~笹の窟12:00~和佐又山ヒュッテ(13:00着)

◆◆学習会B終了山行(大台ヶ原・大普賢岳)の思い出 西川

台高・大峰山系の大台ヶ原と大普賢岳は畿内(山城、大和、河内、和泉、摂津の5カ国の総称)でありながらアプローチが遠いこともあり今まで行く機会が無かったが、学習会の総仕上げとして行くことになったので参加させて頂いた。

第1日目 大台ヶ原(東大台) 日出ヶ岳1695m

朝6時過ぎ小雨降るJR加古川駅北に集合、総勢9名砂川会長運転のハイエースで出発、奈良を目指した。途中道の駅で昼食の“柿の葉寿司”を調達、10時25分大台ヶ原駐車場に到着。ビジターセンター前のベンチで早目の昼食、小雨の中11時7分同センター横の登山口をスタート。

林の中の遊歩道は平坦、いつもの山行と違い快適で皆の会話も弾む。約40分で日出ヶ岳1695mに着く。展望台からは雲海のかかった峰々の向こうに熊野灘が墨絵のように

広がっている。天気良ければ富士山や御嶽山まで遠望することが出来るそうである。そこからはイトザサの原を歩き12時50分正木ヶ原に到着。案内板の昭和38年の写真は一面苔むした原生林だが現状は立ち枯れの木々とイトザサの原が広がっているだけである。

伊勢湾台風の影響で激変したらしい。その後尾鷲辻を過ぎ、牛石ヶ原では神武天皇の銅像に迎えられ13時45分、コース中最大の見どころ大蛇ヶ原に到着。先っぽの展望台まで鎖を手繰りながら恐々降りる。砂川会長が鎖を持たずに岩場を降りてきたのには全員歓声。

谷を隔てて見える断崖絶壁の恐ろしいほどの険しさ。十分堪能した後はシャクナゲの群生する坂道を下り、シオカラ谷の吊橋を渡り、そこからの長い登りは今日一番の頑張りどころであった。15時25分駐車場に帰着。私の思っていたイメージとは違っていたが楽しい山行であった。シャクナゲの咲く季節にまた訪れてみたいものである。

その後、今日の泊の和佐又山ヒュッテに移動。思いがけず風呂に入れて大感激。さっぱりした後手尽くしの料理を頂き、炭火を囲んで和やかに談笑した後20時頃眠りについた。

第2日目 大普賢岳1780m

朝5時起床、ストレッチの後薄暗い中、和佐又山ヒュッテを6時出発。今日は晴れてほしいと思いながら落ち葉の緩斜面を登るうち周囲の景色が最初はピンクに、次第にオレンジに変わりそしてブルーに染められていった。

それが突然のことだったので、まるで劇場の幕が上がったかのような感じだった。クヌギやホウの葉の降り積もった山道を歩いていると”落ち葉の舞い散る停車場によく似た女が降りてくる”のフレーズが浮かぶ。”古っ!”と思わず突っ込んでしまった。しかし余裕があったのはここまで、3か所の岩窟を過ぎると谷側が切れ落ちた道が続きその後は鉄梯子の連続。いよいよ修験者の世界に突入した。



ステップが傾いた鉄梯子もありバランスをとるのが難しい。鉄梯子を8台ほど登り9時16分ようやく大普賢岳山頂に到着。

天気良ければ大峰山系の山々や大台ヶ原も一望できる場所であるが、あいにくの霧で全く視界がきかず残念。ヒュッテで用意してもらった朝食を摂る。風が強く身体が冷えてきたので早々に帰路についた。下りの鉄梯子でシュリングを装着し落下防止の訓練をするが、的確に使うことが出来ず課題が残った。往きと同じ道を下り13時和佐又ヒュッテに無事帰着した。

昼食にうどんを頂き、記念写真を撮って帰路につく。

途中日帰り温泉に入浴し、柿の葉寿司のお土産も買うことが出来た。今回は学習会の成果を実践する事と初めてメンバーと1泊山行出来た事が良かった。運転して頂いた砂川会長、お世話して頂いた橋本リーダー、学習会Bの皆様本当に有難うございました。



■大岩岳(三田市、宝塚市、神戸市の三市境界) 読図山行 地形図とコンパスによる読図山行

- 山行日：11月20日(日)
- 参加者：L和田 SL野村 澤田(律) 笹木

- 行動記録：千苺ダム下駐車場(8:20着)8:35発～市民トイレ(8:45着) 8:55発～登山口(9:10着・休憩5分)～大岩岳(11:15着)11:45発～東大岩岳(12:15着)12:20発～丸山湿原入口(12:55着)～281.4m三角点(13:45着)～東山橋(14:35着)～ダム下駐車場(14:50着)15:20発



◆◆初めての読図山行

笹木

今回の読図山行はたつの市大倉山から三田市の大岩岳に変更された。申し込んだ新人は私1人である。

事前学習があり、リーダーから読図の基礎的なことを丁寧に教えていただいた。

「マンツーマンで教えてもらえてええやん」と友達に言われたものの、読図山行とは、新人が先頭に立ち、読図しながら道先案内をする、と聞いていた私は不安を抱え、ちょっぴり緊張して家を出た。

午前7時、外は20メートル先が見えないくらい白い霧に包まれていた。リーダーの車に乗り合わせて山陽自動車道を東に向かい三田市千苺ダムの駐車場に8時20分に着いた。

川をはさんで向こうの山は、中腹まで白い霧に覆われ、紅葉が見え隠れしてコントラストが綺麗だった。しかし、大岩岳はもちろん周囲の山々もはっきり目視できない。早速、コンパスを使って見えている山を調べ、大岩岳の方向と歩いていく道を確認した。

新人は私1人だが、リーダーもサポートメンバー2人も初めての山ということで、全員で読図しながらの山行となり私は3番目を歩かせてもらいラッキー!!

地図通りダム下の橋を渡ったところに、ダム～大岩岳へ2.5Kの標識があり「えっ? たった2.5K?」と思った。登山口から登ること15分、最初の分岐の谷川沿いに出た。

「神水」の石塔がある。地図では谷を渡るとすぐに2つの分岐があるはずなのに一方しか道がない。しかも、思っていた方向と違う方へ続いている。谷の手前にある斜面が分岐なのか?? 標高を確かめてそのまま道なりに進むと、道の真ん中に「神水」と彫られた石標が間隔を追って埋められていることに気づき、古くからの村人の参道なんだと思った。そのまま5~6分登るとやっと地図と同じ分岐に出ることができ、左下にダムが見え始めるとさらに確信できホッとした。

等高線と自分たちのいる高さを確認してダムを見ながら登る。地図上では山の中腹230m辺りを周り込むように進み、谷を渡り、なだらかな斜面を登って平らな尾根を通り少し下ると次の分岐があるはず。最初の谷を渡った。これが地図の谷?こんなに近いはずがない、左下にはダムが見えている。地図の谷は左側に山がありダムから離れているから違う。すぐにまた谷を渡る。左下には雨裂らしき崩れた山肌、山の斜面にも谷と尾根がある。

枯れた谷をいくつか渡った。地図にある水の流れている谷川に出たのはそれから20分後。そこから少し登ると分岐があり大岩岳の標識を確認。大岩の方向に登ると少し見晴らしのきくなだらかな尾根に着いた。休憩をとりコンパスと地形図で周囲の山々、大岩岳を確認するが大岩岳山頂は見え、手前に1つの山が立ちはだかっているように見える。

この山は何?地図上ではここから先に分岐があるが実際は手前にあったし、分岐の後でこんな平坦な尾根はない。と言うことは地図の道がずれているのだ。今居る位置から地図を見直すと、進行方向に山はなく、山に見えている所は大岩岳に続く山の側面でそこを周り込んで登って行くのだと教えてもらう。が、それが地図のどこからどう見て解釈しているのか私にはわからない。じゃああの山は何処?こっちは何?この急な斜面は地図の何処を登っているの?「あー わからない。(溜息)」リーダーについてとにかく登ったら西のピークにたどり着いた。隣に大岩らしき山があり地図で確認する。10メートル下りて40メートル登れば大岩山頂だ!見上げると大きな岩の塊が立ちはだかっていた。「なるほど、これが大岩か!」山頂からの眺めは、遠くは霞んで見えにくかったが、360度の展望で晴れていれば高御位まで見えるそう。後から資料をみて気づき、せめてその方向だけでもしっかり確認しておけば良かったと反省。30分昼食休憩をとり記念撮影を済ませ出発。



各々がコンパスで下山道を探す。磁北線を合わせて磁石の北を合わせてくるり!「あれ?みんなと反対方向だ!どうして?」。磁北線の北方向を逆に合わせていた。

再度やり直す。今度は下山口がみんなバラバラ。下山道は降り口からすぐに90度回って下へ続いていたから皆の立ち位置によっては正確に出なかった。きちんと登山道に立ってコンパスを合わせるようにと教えてもらった。登ってきた方角の反対側から下り始める。

少し下りたところで先に下りていたパーティの人達が迷ったらしく尋ねて来られる。登ってきた方向に下りたつもりが違ったらしい。逆方向だと説明すると「やっぱりコンパスが大事やなあー」と言いながら引き返して行かれた。リーダー曰く。山頂に登って弁当を食べる場所を探して動き回ると方向が分からなくなることがある。なので、登頂した時にまず下りる道を確認しておくのが良い。と教えられた。それからはほぼ地図通りの下山道を歩き丸山湿原に入った。ここでも湿原の標識があちこちにあり示す方向がバラバラ。不安を抱えつつ地図に沿って進む。地図の通りに分岐があり湿原も大小あちこちにあるよう

だった。木道が整備されている1番大きな第一湿原を周りきったところで、頭上に送電線があり鉄塔の下に来た。コンパスを合わせて下山方向を確認する。281・4の三角点のある山を通り、そこからは落葉樹林の広い道をひたすら下りて武庫川と波豆川の合流点にかかる東山橋にたどりつく。14時35分、全長8キロ、所要時間6時間、「よく歩いたなあ〜」。

今回も感想文が当たった。新人は多いらしい。感想文は苦手だし、こんなので良いのかといつも悩むが、山行を振り返りながら資料を読み返し地図の記号を調べ、歩いた道を改めて地図上で辿ってみることで、谷、尾根、急な斜面、なだらかなところなどが分かり、地形図が少し立体的に見えた気がする。ご一緒して下さった皆様、ありがとうございました。



■増位山～広峰山～書写山縦走(姫路市) (紅葉に染まる史跡・名所を歩く)

- 山 行 日：11月23日(水・祝)
- 参 加 者：La 澤田(律) SLa 三木(悦) 木村 田中(重) 平井(正) 藤本 藤原
松本 村上 森下
Lb 上田 SLb 山本(正一) 赤木 兼本 島谷 田中(由) 平石 待場
山本(清)

- 行 動 記 録：JR野里駅8:33発～増位山東登山口(8:49着)8:56発～増位山山頂(9:32着)
9:40発～広峰神社(10:53着・昼食)11:20発～山富団地13:05～置塩坂登山口
(13:25着)13:35発～書写山山頂(14:46着)14:50発～書写山ロープウェイ駅
16:00～書写東坂登山口16:25～書写バス停16:38～姫路駅(17:15着)

◆◆雨は降らないものの

平石

雨は降らないものの、風の強い寒々とした日でした。野里駅に集合し、増位山～広峰山～書写山の縦走で紅葉に染まる史跡・名所を歩きました。増位山自然公園登山口でストレッチをして、さあ、スタートです。

どんぐりと落ち葉で埋めつくされた登山道をひたすら歩き、途中の展望台で一休み。空は曇っていましたが、展望は良く、遠くの島々まで見渡すことができました。増位山頂上から広峰山までの山道は両脇に檜の高木が続き、先日訪れた熊野古道を思い出しながら歩きました。夏だったら、この木陰といい、冷風といい、きっと涼しくて気持ちがいいだろうなあと思いつつながら・・・



広峰山に着いたのは11時過ぎでしたが、とても寒かったので広峰神社の休憩所をお借りして早めの昼食をとり、書写山へ向かいました。

書写山では、25日から紅葉まつりが開催されるらしく、たくさんの人で賑わっていました。ただ、今年は紅葉が早く、私たちが行った時には既に落葉が進んでいました。赤・緑・黄と落ち葉のじゅうたんを敷き詰めたようで綺麗でした。

書写山には何回か行きましたが、頂上まで登ったのは初めてでした。頂上は、高い木に囲まれてひっそりとしていました。その後、大講堂(国指定重要文化財、円教寺の本堂にあたる堂)、常行堂(室町時代建立)、食堂(承安4年、後白河法皇の勅願により創建)を見学し、『軍師官兵衛』の撮影場所や『ラストサムライ』のロケ地を巡り、「ここに岡田准一が・・・」「ここでトム・クルーズ」が・・・と言いながら楽しいひと時を過ごしました。

摩尼殿(天禄元年創建、大正10年10月火災で全焼、昭和8年再建)にもしっかりお参りし、みんなで摩尼殿の前の茶店で力餅をほおばりました。そのお陰で(?)、帰りはスイスイ下山できました。

帰りの車中で歩数計を見ると、34000歩を超えていてビックリ!!長距離でしたが歩き通すことができ、また1つ自信がプラスされた山行でした。

リーダーさん、気にかけてくださりありがとうございました。皆さんと一緒に完歩することができました。今後ともよろしくお願いします。



■六甲山(北から南へ六甲横断) (逢山峡からシュラインロードに石仏群を訪ねる)

- 山 行 日 : 11月25日(金)
- 参 加 者 : L野村 SL森本 大谷 田羅間(勤) 西川 舛賀

- 行 動 記 録 : 有馬口 9:00 発~林道分岐(10:00 着)~行者堂(11:20 着) 11:30 発~保護センター(12:10 着) 12:50 発~前ヶ辻谷(13:40 着) 13:50 発~六甲ケーブル下駅(14:20 着)

◆◆「北から南へ六甲横断」山行 逢山峡からシュラインロードに石仏群を訪ねる 舛賀



【一言感想】

神鉄有馬口駅9時スタート。山王神社にて安全祈願とストレッチをし、九体地蔵を見てシュラインロードの丸木階段を登る。路端の左右に安置された一番から三十三番の松の木に寄りかかったお地蔵さん。又、石杵が傾きその奥の笑みを浮かべたお地蔵さんや地図を見ながら古道を3時間山行する。六甲山頂の自然保護センター展望から淡路島 四国の景色を見ながら、各自の手弁当を美味しく食べる。アイスロード、真っ赤に染まった道や紅葉の落ち葉を踏みなら約2時間で下山。

六甲ケーブル下駅に14時20分頃につく。

その後、定期コースの“ザコバ”でピヤ乾杯。

健脚参加者 L野村さん、S L森本さん、多羅間さん、西川さん、大谷さん、舛賀でした。



■御旅山(141m) けんか祭りの聖地 (黒田官兵衛ゆかりの妻鹿村 史跡を訪ね歩く 国府山城址)

- 山 行 日 : 11月27日(日)
- 参 加 者 : La 平井 SLa 澤田(律) 大野 狩集 砂川(延) 田中(重) 藤原 舛賀
村上 矢根
Lb 上田 SLb 垣内 内海 香川 木村 澤田(卓) 島谷 田中(美)
田中(由)
- 行 動 記 録 : 山電妻鹿駅 9:10 発～国府山登山口(9:20 着)9:40 発～国府山頂上(10:0 着)10:05 発
～黒田職隆廟所(10:55 着)11:00～松原八幡神社(11:25 着)12:10 発～御旅山棧
敷場(12:20 着)～御旅山八幡神社(12:30 着)～御旅山頂上(13:00 着)13:10 発～
播州黒田武士の館(14:00 着)14:15 発～山電妻鹿駅(14:40 着)

◆◆雨の国府山から御旅山

矢根

前日、リーダーから「降水量が1ミリですので、予定どおりで行います」と、メールをいただき、ああ雨なのかと残念でした。

当日は、家からカッパを着てスパッツをつけての山行です。山陽電車妻鹿駅に集合し、そばの自転車置き場の下でストレッチをして、国府山登山口でボランティアの方の説明を受け出発です。国府山山頂では、お天気が良ければ姫路城もきれいに見える景色でした。

途中に島谷智美さんのお宅でアイスクリームをいただき、おいしゅうございました。

黒田職隆廟所～松原八幡神社の立派な正門を入ると、「祭りの時に三台の神輿が社殿に揃う」と、島谷さんの説明を聞き、トイレをすませ、神社前の棧敷下で昼食を済ませました。

御旅山の長い坂を屋台が上がるのかと、すごいとびっくりしながら登り、御旅山山頂からは何も見えなくなっており、次はお天気の良い日に来たいと思いました。

最後は播州黒田武士の館でお話を聞き、妻鹿駅で解散しました。本当に1日中雨の山行になりました。

次は、白浜のお祭りを見に来たいと思いました。途中で、舛賀さんの黒田節と詩吟を楽しませていただきうれしゅうございました。また、地元の島谷さんには、色々とお祭りなどの事を教えて下さりましてありがとうございました。





■音羽山(593m)～高塚山(485m) 女性委員会 (京都南部の音羽山系を歩く)

- 山 行 日 : 12月3日(土)
- 参 加 者 : L 瀧原 SL 苦瓜 乙坂 狩集 田中(美) 田中(由) 田羅間(易) 平石 開 森下 矢根 山本(清)
- 行 動 記 録 : 京阪大谷駅 9:30 発～蟬丸神社(9:32 着) 9:40 発～路傍休憩地(11:00 着)～音羽山山頂(11:20 着) 11:55 発～牛尾観音(12:35 着) 12:50 発～桜の馬場(13:00 着)～高塚山山頂(14:20 着)～醍醐寺(15:30 着)

◆◆音羽山と高塚山

乙坂

私にとっては久しぶりの快晴の山行、前日のテレビのお天気コーナーでは行楽日和と書いていたのでとても嬉しかった。

リーダーの瀧原さんから山行計画書と地図が送られて来た時、通過地点の「蟬丸神社」に目が留まりました。思わず調べてみると、百人一首で有名な「蟬丸」が祀られている神社であることがわかりました。

「これやこの 行くも帰るも わかれては 知るも知らぬも 逢坂の関」

有名な句だなあ、蟬丸と言え、とても不気味な絵で描かれているけど、どんな人だったのか…。

音羽山は森林の中に設置された階段を上るといつの間にか山頂に到着したと感ずるほど、とても歩きやすい山道でした。階段の段数は605段！途中、景色を眺められるポイントは少ないものの、山頂は絶景が広がっていました。遠くに比叡山と琵琶湖が広がっていて、京都の街並みと高速道路と鉄道が眺められました。

山頂でお昼ご飯を食べ、次へ、牛尾観音まではすぐに到着しました。何だか少し寂しい所でしたが、お手洗いがあるのは有難い。そして高塚山へ。ここも森林帯で眺めはほとんど望めず、ひたすら登りが続きました。

音羽山と比べると目印が少なく、案内板もありませんでした。山頂へもいつの間にか到

着したと言う感じで、かまぼこの板位の看板で「高塚山」と書いてありました。山頂で少し年配の女性がフツの格好で歩いて居たので、地元では愛される山なのかな。

その後、走り去る男の人、ぴょんぴょん跳ねながら下りていくおじさん、どこからともなく急に現れるのでびっくりしました。

下山すると、長尾天満宮に下りてきていました。ここは参拝客がわりと多く、有名な神社なのかな？帰って調べると、この辺りは菅原道真が拠点としていた場所で、道真公の衣服が埋葬されていると伝わる塚があるそうです。



高塚山は標高485m、そんなに高くはないものの、勾配が有る為 いい汗をかきました。久しぶりの京都、帰りは「阿闍梨餅」を買って帰りました。

Lの瀧原様、SLの苦瓜様、ありがとうございました、皆さまお世話になりました。



■明神山を裏から アルプ

- 山 行 日：12月3日(土)
- 参 加 者：L竹内 SL和田 大谷 須増 三木(悦)
- 行 動 記 録：駐車場 9:36 発～登山口(9:47 着)～T尾根(10:35 着)10:45 発～分岐(10:59 着)～西の小明神山(11:03 着)11:13 発～明神山(12:25 着)12:50 発～地藏岳(13:09 着)13:20 発～駐車場(14:40 着)

◆◆裏から登る明神山

大谷

裏から登る明神山は、荒れていて、落石もあるかもと言う話なので、藪漕ぎ覚悟で行った。用心のため、ヘルメット・簡易チェストハーネス、軍手等を着けて、明神湖駐車場から、林道を歩いて10分程の明神湖登山口より登る。

いきなりの急坂ですると靴が滑ってしまう。トラロープ、木の根っこ等を持って上がる。まさに、バリエーションルートで1時間程歩くと分岐に着き、小休止。それから少し行くと西の小明神山に出た。

お天気も良く、山もきれいに紅葉していた。

岩場に出ると、それは戸隠山の蟻の戸渡りに似たような所が出てきた。(多分、戸隠山の方がもっと高度感があって、怖いと思うが・・・)

常にアップダウンを繰り返して、明神山山頂につくと結構たくさんの人たちが登っていた。

頂上でお昼を食べてから、Cコースに降りるが、ここもすごく急坂で滑り落ちそうになるのを、トラロープ、木等を持ちながら1時間半程かかって、「夢やかた」の駐車場まで降りた。

バリエーションに富んでいて、面白い山行でした。

